

1 はじめに

（1）策定の背景とその意義

高齢化の進展により、公共交通の重要性がこれまで以上に高まっていくものと考えられることから、将来にわたり持続可能な公共交通網の構築を目指してこの計画を策定します。

（2）計画の対象区域

佐倉市全域とします。

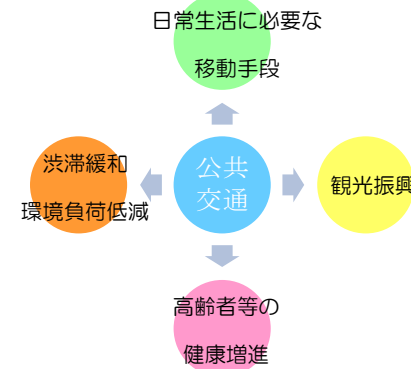
（3）計画の期間

上位計画である第4次佐倉市総合計画及び後期基本計画に即し、平成31年度までを第1次計画期間とします。

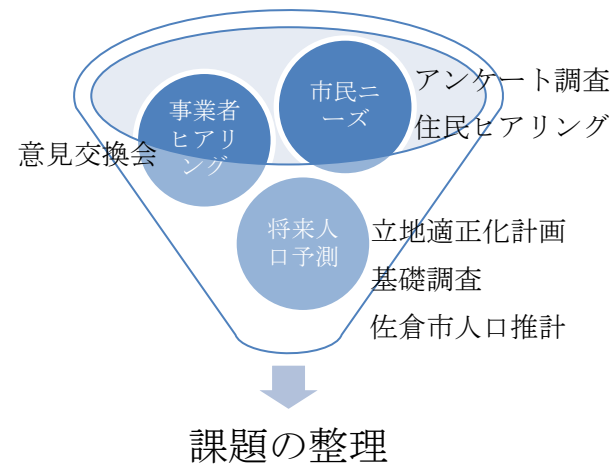
（4）計画の位置付け

『交通政策基本法』の基本理念にのっとり、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条の規定に基づき、策定するものです。また、『第4次佐倉市総合計画』に即し、『佐倉市都市マスタープラン』と調和し、『佐倉市立地適正化計画』など関連計画との整合を図りながら進めていきます。

3 公共交通に求められる役割



4 課題・ニーズの把握



5 本市における公共交通を取り巻く重点課題

交通空白地域への対応

・既存の公共交通網ではカバーできていない地域が複数残されていることから、これらの地域を優先的に解消していく必要があります。

高齢化の進展により増加する交通弱者への対応

・高齢化の進展により増加していく、高齢者をはじめとした交通弱者の方々にとって、使いやすい公共交通環境を整備していく必要があります。

利用者減少への対応

・家用車の普及等を背景に、本市の公共交通利用者は減少傾向にあります。持続可能な公共交通サービスを維持していくには、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を認識し、相互に協力しながら地域の公共交通を守り育てていく必要があります。

ネットワークの確立と拠点へのアクセス向上

・人口減少、人口密度が低下していく中で、持続性のある公共交通網を形成して行くためには、まちづくりと連携したネットワークを構築する必要があります。また、重要拠点へのアクセスを確保することで、歩いて暮らせるまちづくりを実現していくことも必要です。

6 計画の推進体制及び基本方針・将来像

将来像

まちの骨格となる公共交通網が広がる都市 佐倉

基本方針

交通空白地域の解消

各交通手段の連携と維持・向上

公共交通を利用したくなる環境創出

推進体制

「市民」・「交通事業者」・「行政」の3者の協働

2 現状

2-1 公共交通を取り巻く状況（全国）

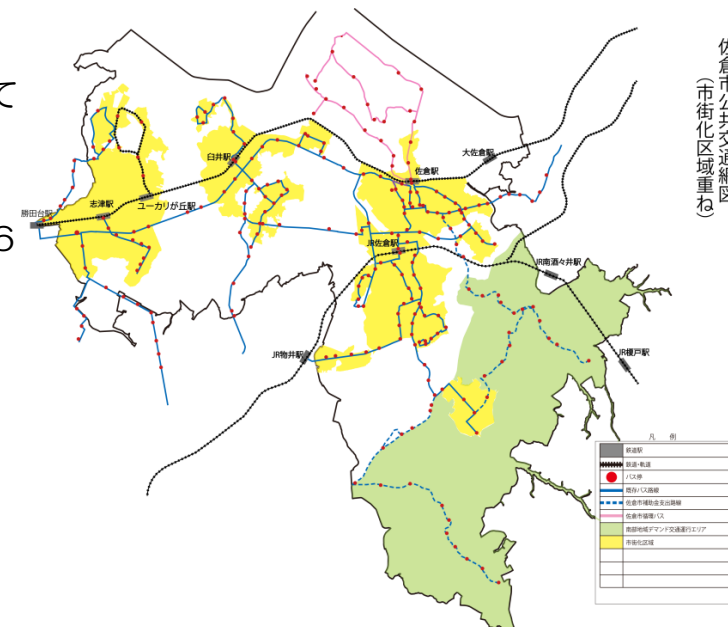
鉄道の輸送人員は現状を維持してきましたが、家用車の普及に伴い、バス・タクシーは利用者の減少が続いており、負のスパイラルに陥っています。

2-2 佐倉市の現状

本市の人口は平成28年3月末時点で176,976人で、高齢化率はこの10年で約11%上昇し、28.5%になっています。

2-3 公共交通網の整備状況

公共交通機関は、鉄道が2路線6駅、新交通システムが1路線、バスは17路線、このほかタクシーが個別の需要に対応しています。このほか、行政主導の公共交通として、『佐倉市循環バス』と『南部地域デマンド交通』が運行されています。



7 基本方針ごとの実施事業

基本方針1

施策1 交通空白地域等の解消

施策2 実施済みの交通空白地域地策の見直し・検討

基本方針2

施策1 各交通手段の連携及び維持・向上

施策2 まちづくりと連携した路線新設の検討

施策3 新たな移動手段の活用の検討

基本方針3

施策1 情報不足の解消

施策2 公共交通利用への転換促進

施策3 鉄道駅を中心とした交通結節点の待合環境の整備

施策4 交通弱者の外出支援の検討

最優先で取り組んでいく事項

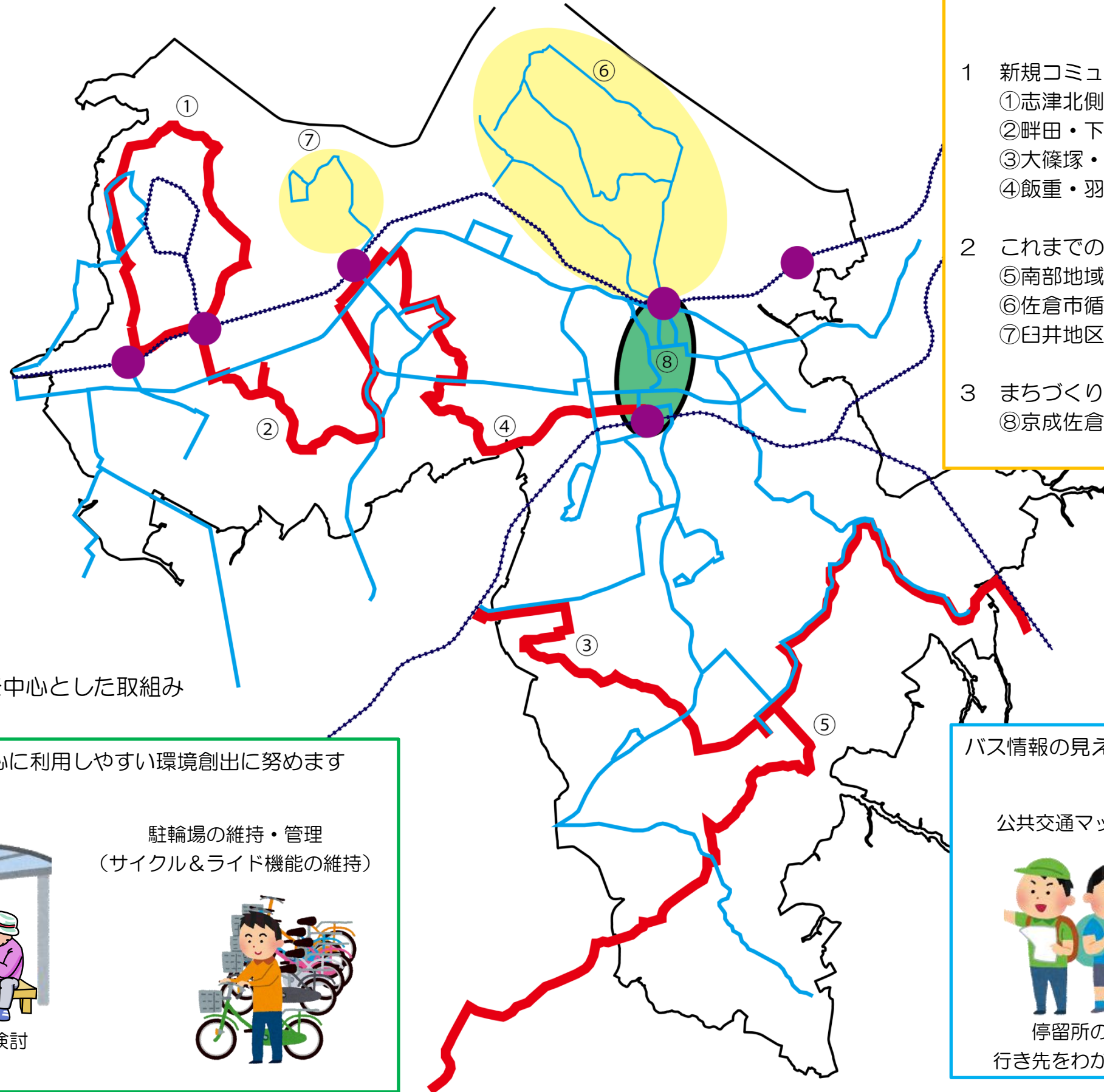
- ①交通空白地域の解消
  - 志津北側エリア
  - 畔田・下志津エリア
  - 大篠塚・小篠塚エリア
  - 飯重・羽鳥・寺崎エリア（次期計画）
- ②実施済みの交通空白地域対策の見直し
  - 南部地域デマンド交通の見直し
  - 佐倉市循環バスの見直し
  - 臼井地区北部の利便性向上

# 佐倉市地域公共交通網形成計画（概要版）

第1次計画期間：平成29年度～31年度

概算事業費：386百万円

平成29年2月 都市計画課



## 新たなコミュニティバスの運行と これまでの交通空白地域対策の見直し

- 1 新規コミュニティバスの導入  
①志津北側エリア  
②畔田・下志津エリア  
③大篠塚・小篠塚エリア  
④飯重・羽鳥・寺崎エリア（次期計画）
- 2 これまでの交通空白地域対策の見直し  
⑤南部地域デマンド交通  
⑥佐倉市循環バス  
⑦臼井地区北部の利便性向上
- 3 まちづくりと連携した路線新設の検討  
⑧京成佐倉駅～JR 佐倉駅間の周遊性向上

● 鉄道駅を中心とした取組み

— 既存公共交通網への取組み

鉄道駅などを中心に利用しやすい環境創出に努めます



待合環境整備の検討

駐輪場の維持・管理  
(サイクル&ライド機能の維持)



バス情報の見える化によって  
利用しやすい環境を創出します

公共交通マップの作成



停留所の位置や  
行き先をわかりやすく！

あと5分でバス  
が到着します♪



バスロケーション  
システムの導入検討